

庄原から 北京オリンピック 出場をめざす



金藤理絵さん
(山内・三次高校3年)

クローズ CLOSE UP アップ 話題の人に迫る

持って生まれた故障しにくい強い体が自慢で、練習量をこなせる体力と精神力を持っている。

高校日本一に輝く

水泳を始めたきっかけは、お兄さんとお姉さんが水泳をしていたこと。小さい頃からプールが遊び場だった。父・宏明さんに平泳ぎを教わった山内小学校3年生の時、三次スイミングクラブに入部した。

トップアスリート

昨年夏の全国高校総体(インターハイ)、競泳女子200メートル平泳ぎで優勝した金藤理絵さん。身長174センチの長身と手足の長さを生かした大きな泳ぎが特徴で、金メダリストの北島康介選手と同様にすばやくストリームライン(推進力が得やすく、水の抵抗を受けにくい姿勢)を作ることができる日本トップクラスのスイマー。

毎日6千メートルを泳ぎ、多い時は1日2万メートルを泳ぐハードな練習をこなす。

庄原中学校に入ると週6日の練習を始め、毎日バスで三次市のプールへ通った。その結果、2年生で県大会を制し、3年生では全国大会4位と順調に記録を伸ばし、一躍全国トップクラスの競泳選手として注目を集めるようになった。

さらなる飛躍が期待された高校入学後、初めてスランプに陥る。日本のトップスイマーとして期待のかかる金藤さんは、遠征先で様々なコーチから助言を受けることで、逆に頭の中が混乱して自分の水泳ができなくなった。また、厳しい練習やレベルの高

目標は 北京オリンピック

現在、金藤さんはオリンピック強化指定選手に選ばれている。昨年から今年にかけてタイムを約2秒縮めたこともあり、オリンピック出場ラインとなる2分25秒台も夢ではない。

井清コーチは、2008年の北京オリンピックに必ず出てほしいと願う。そのため、今年4月の日本選手権で2位以内を目標にする。「オリンピック選考レースは来年だが、2位以内に入ることで今年一年を日本代表として世界の舞台が経験できるなど、オリンピックへ向けた戦いを優位に進めることができる。あと3カ月、やれるだけのことをやって、大学や日本選手権に送り出してやりたい」と話す。

「北京オリンピックに出場する」一人の女子高生の夢が庄原市民の夢へと大きく膨らむことを願う。

しかし、地区予選を2分28秒代で泳いだ選手が2人も現れ、「こんなタイムで満足していた自分が許せない」と、自分を奮い立たせ練習に励んだ。

「目標を決めたら、何がなくてもやるタイプ」とコーチが評価するおと、全国高校総体を2分27秒64の大会新記録で優勝し、念願の日本一

さ、体格の変化も重なり、「もう水泳を辞めたい」と練習に身が入らない日々が続いた。

う一度本気でがんばると、気持ちを切り替えた。自分に対する甘えがなくなり、高校2年生の全国高校総体で準優勝を果たし復活。昨年4月に行われた日本選手権では、2百メートルを2分29秒00で高校生トップを記録し、目標としていた全国高校総体の優勝に自信が芽生えた。

高校卒業後は、今年度日本ランキング1位の田村菜々香選手がいる東海大学に進学する。これからは身近にライバルを意識しながら練習に励むことになる。

■ベスト記録:200m平泳ぎ2分27秒64, 100m平泳ぎ1分10秒63



練習メニューを伝える井清俊文コーチ。姉の藤田和恵コーチと2人で、小さい頃から金藤さんを指導してきた。技術面は井清コーチ、メンタル面は藤田コーチが担当し、家族のような強い信頼関係を築いている。「金藤さんは特別な子ではない。どこにでもいる子が、やりたいことを我慢して、夢に向かって努力したということ。どの子にもチャンスがある」と次のトップアスリートの育成にも意欲を燃やす。